

生き方 中学校・高校



中学校・高校

総合

プロフェッショナル 仕事の流儀 43分

医者は人生を手術する ～脳神経外科医・上山博康～

(2006年放送)

この番組の良さ



信頼されることの大切さとその責任

本番組は、全国からその腕を信頼され、重症の脳動脈瘤患者の手術を行う脳外科医の姿を描いています。このような話は、とすると極めて高度な技術と才能をもつ特別な人間という側面が強調されがちです。しかし、上山博康医師は自分を信頼してくれる人に対して、精一杯の努力をしているのであり、これはあらゆる職業にあてはまるものです。

人は失敗や挫折から成長していく

超一流と言われている職業人も、初めから一流だったわけではなく、先人たちから学び、失敗や挫折から成長していくことに変わりはないのだということが実感できます。

これから社会に羽ばたいていく子どもたちに、職業を通して生きていくことについて考える際に、是非見てもらいたい番組だと思います。

番組活用のポイント

職業とは何かについて考えよう

「私は〇〇になりたい。」と具体的な職業名を決めることが、将来の仕事について考えることの目的なのでしょうか。職業とは自分の希望と同時に、社会から要請されてこそ成り立つものだとも言えます。自分の「やりたいこと」だけでなく、自分は何のために、何ができ、誰のどんな役に立ち、何を得るのか、という、社会の参加者としての視点も必要です。上山医師の目的は「脳外科医であること」ではなく、「病気で苦しむ人々を助けること」であり、脳外科医という職業を通じて、目的を実現するために日々努力し続けていることがわかります。

人は失敗から学び、成長していく

上山医師は「患者が命を懸けるなら、私は医者としての命を懸ける」と言っています。これほどまでの信念はどこから生まれたのでしょうか。とても格好の良い言葉に聞こえますが、そこには手術の失敗から患者が亡くなってしまったという、非常に辛く重い思い出が詰まっています。「あの失敗が忘れられない、自分は失敗の業を背負っているのです」と上山医師は語ります。失敗や挫折は確かにつらい経験です。しかし、あきらめることなくそれを自分の信念へと昇華している姿が印象的です。

いのちは一人だけのものじゃない

この番組からは、職業という視点以外に「いのち」とはなにか、についても感じとることができます。脳外科手術にかかわる人々の思いがひしひしと伝わってきます。患者やその家族たちの表情、言葉を聞くと、人間の「いのち」とは本人だけでなく様々な人々の思いが詰まっているのだということに気付かされます。

(永野 直)

学習展開例

授業時間 100分 2単位時間目安

「いのち」を救うために「いのち」を懸ける 働くことの意味を考える



時間配分	学習活動	教師の支援
20分	① 仕事をする事、職業に就くこととはどういうことか、違いがあるのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事と職業って何が違うの?という話題から、ブレインストーミングをさせる。決まりきった答えはないので、自由に考えてなるべくたくさん発言させる。 ○ 話が行き詰ったら、教師はファシリテーターとして質問を投げかけてみる。 例) 「学生は勉強が仕事だというけど、学生は勉強が職業だ」とは言わないのはなぜかな?など。
50分	② 「医者とは人生を手術する」を視聴する。 <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳神経外科医の過酷な現場 (開始～10分00秒) </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脳動脈瘤手術 ・ 目の前のことに集中する ・ スタジオでのインタビュー (10分00秒～20分45秒) </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 師との出会い ・ 忘れられない苦い記憶 ・ プロとしてのプライド (20分45秒～30分00秒) </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困難な手術に挑む ・ 患者の家族の思い (30分00秒～終わり) </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 番組を視聴する前に、具体的な職業としてだけを見るのではなく、勤労観、職業観についても考えることができるような投げかけをしておく。 ○ いくつかの場面に区切って、その都度指導することも考えられるが、内容に集中している意識と、子どもたちの感情の動きを妨げないためにも、連続して視聴する方が望ましい。 ○ 番組内には手術場面も含まれている。それほどショッキングな場面はないが、このような映像が特別苦手な子どもがいる場合には配慮が必要な場合もある。 ○ 「上山医師の信念はどこから生まれているのか」挫折や失敗をマイナスだけとしてとらえるのではなく、その現実をしっかり受け止めたくて、自己成長・自己実現の糧としていく強さを感じさせたい。 ○ 命の重さについて、手術を受ける患者とその家族、患者の命を自分の手で左右する立場にある上山医師、それぞれの心情を読み取らせたい。
30分	③ 上山医師にとっての仕事、職業とは何か考える。 ④ 自分の将来の仕事、職業について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が職業を通して、社会に、周りの人々に与えることができるものは何だろうか、その対価として得るものは何だろうか、などと問いかけ、考えさせる。 ○ 職業を通して生きていくためには報酬が必要なのはもちろんである。しかしその他に、自分のすべき仕事や目的を見つけ、それを実現することの意義について考えさせるきっかけとしたい。

小学校展開例

ぎりぎりまで努力し、命にかかわる姿から学ぶ

睡眠時間は1日4時間。年間300を越える患者の命のために仕事を続けていく。上山医師の生きざまは、今の小学生にとっては理解しにくいことかもしれない。しかし、これから仕事や生き方を学んでいく子どもたちに、お金だけでなく命を懸けて仕事に向かう姿を伝えることは、とても大事なことである。自分に託された命に、ぎりぎりまで努力し、かかわっていく。総合学習や道徳などで、自分らしい生き方や命について考える際に活用すると、子どもたちの見方や考え方を広げるのに効果的である。(山内雅博)